

## 「地図好きシンガポール人」

## シンガポール在コンサルタント 塚越吾郎(29回)

私の新宿高校時代の成績は全て中の下レベル、これといった得意科目もなく流されるまま浪人し、結果として慶応義塾大学に入学したもののこれといった興味を経済学の中でも見いだせませんでした。恐らく人生最大の転機は社会人になってから訪れ、それは営業担当の東南アジア諸国に初めて訪問できた事だったと思います。その時の「一目ぼれ」はその後実行され、その中で「一番住みやすく安全と思われた」シンガポールに移住して22年、現在はシンガポール国籍を取得し日本国籍は既に喪失した日系一世のシンガポール人です。この地でIT関係と東南アジア諸国の航路安全に関わる仕事のお手伝いしています。

ひとつだけ思い当たるのが、小さいころから地図を見るのが大好きで、それも日本国だけでなく世界中の未だ訪れたこともない地に想像心を掻き立ててました。東南アジアに迷いもなく飛び込めたのも、その地図による事前の刷り込みがあったからだと思います。現在、東南アジア諸国連合

(ASEAN)ならびにインド洋沿岸諸国と仕事上の関係があります。これは足掛け30年間近くこの地で培った人脈もベースとなっています。その10数か国の地図の点と点を結んでいるのは飛行機と船で、自分の移動は飛行機ですが、船舶の航路(シーレーン)も重要な意味をもっています。これは複数の国家の政治経済活動に大きな影響をもち、日本も決して無関係ではありません。

かつてポルトガルから始まった西洋列強のアジア進出はオランダ、イギリス、大日本帝国占領時代を経て、いまだ地図上の同じシーレーンに多くの船舶が往来しています。私の住んでいるシンガポール沖だけで年間20万隻の船舶が往来し、そのうちの半数は日本と結び、中東からの原油やコンテナ貨物などを運んでいます。このシーレーンに災害や紛争などの何らかの障害が発生するとたちまち日本経済は危機に瀕します。よってこのル

ート沿いの東南アジアやインド洋諸国と日本は強い関係を保って、安全保障外交政策をとっています。第二次世界大戦で日本が敗戦へと向かう致命的なダメージを受けたのも、本土空襲前にこのシーレーンを攻撃されて海運が途絶えたからです。昨今、世界中が政治的不安定状態にある中で、このシーレーンを守ることは日本だけでなく、シンガポールをも含めたアジア全体の地政学的安定につながります。これらの政治経済の課題が地図上ですべて説明できます。

3年前から成城大学経済学部にて特別講師として年一回講義を受け持つ機会を頂きました。自分のちっぽけな存在を仕事を通して白地図上に少しづつプロットしてきた半生を学生たちに紹介しています。一種の社会貢献につながったかと思うと感無量です。

ちなみにその地図好き少年が大人になってショックを受けたのは、旅先のモロッコでみた地図でした。今まで親しんできた日本が中心に書かれた地図ではなく、モロッコが世界の中心に書かれたヨーロッパ中心の地図で、右(東)端は何らかの理由で台湾あたりで切り取られ、日本は何とその地図には存在してませんでした。極東とはよく言ったものです。ヨーロッパからみたら日本など地の果てだったのです。ニュージーランドでみた地図は南北が逆さまでした。ニュージーランドが世界の一番「上」に位置してました。幼いころから刷り込まれた世界観をリセットするいい機会になりました。見方次第では世の中の自分の立ち位置が180度変わることもあります。現役新宿高校生にとってまだ真っ白な世界地図に、迷うことなく飛び込んで行って欲しいと思います。

(朝陽同窓会のご協力を得て「先輩からの言葉」を掲載しています。)